

安田記念

例年、安田記念は 2000mG1 実績馬が
中距離で発揮したパフォーマンスをフルに
発揮できないケースが目立つレース傾向。

その典型例がアーモンドアイ。
2020 年は 1 人気で 2 着。19 年も 1 人気で 3 着。
ジャパンカップよりもパフォーマンスを大幅に下げました。

アーモンドアイ以外でも中距離指向の馬は
パフォーマンスを落とした馬は枚挙に暇がなく、
2018 年もジャパンカップ、大阪杯を勝った
スワーヴリチャードが 1 番人気で 3 着。

2 番人気で 6 着のペルシアンナイトも皐月賞では連対実績馬。
ともに 1400m 以下へ出走した経験すらない戦歴。

逆にいえば、1400m よりも短い距離を経験した馬は有利。
近 2 走で芝 1600 と芝 1400m 以下を両方経験した馬が
まとめて恵まれるレースパターンにヤマを張ります。

本命はソングライン。

前走芝 1600m 経験。前々走は 1400m 以下経験。
この臨戦過程は安田記念に限らず、マイル戦で期待値の高いステップ。

父はキズナ。ディーインパクトとストームキャットの配合馬。
昨年当レースを勝ったダノンキングリー、サトノアラジンも
ディープとストームキャットの配合馬。
どちらの馬も芝 2000m 以上 G1 は未勝利。

母父シンボリクリスエス。
当レースでは産駒のストロングリターンが当時のレコードタイムで優勝。

そのストロングリターンも前走で芝 1400m を経験。
芝 1800m 以上重賞は未勝利。
父も母父も短い距離での実績を積み、
安田記念にフィットしやすい血統構成。

対抗レシステンシア。
ソングラインと同様のステップ。
アドマイヤマーズ、メジャーエンブレムなど、
ダイワメジャー産駒は母方にサドラーを持つのが成功配合。

セリフォスも 3 番手。
ディープ、ハーツ産駒が芝中距離で走らせる配合、
育成が成熟したのと同様、マイル G1 は現役時代に
春秋マイル G1 を勝ったダイワメジャーが続々と
走る流れをそのまま馬券に組み込みます。

シュネルマイスターは今年の 3 着馬。
リピーターのノーザンダンサー系が走りやすいレース。